2019 年度 秋冬学期

授業改善アンケート調査結果

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科 評価委員会

授業改善アンケート調査結果

１．授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、2004 年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケートを実施している。講義科目を対象に授業内でマークシート用紙の配布・回収により実施していたが、2016 年度にグローバル 30 人間科学コース（以下、G30）、2017 年度には、講義科目以外の演習、実習、研究も対象科目となった。講義科目以外の科目については KOAN 上での回答を行っていたが、2019 年度春夏学期からは、全科目を対象科目に、マークシート用紙による回答形式を採用している。実施期間は以下の通りである。

2019 年度春夏学期アンケート回答期間：2019 年 7 月 4 日～8 月 6 日

対象科目は、人間科学部・人間科学研究科で実施されている講義、演習、実習、研究を含む全科目である。講義科目と講義以外の回収率は以下の通りである。なお、講義科目および講義以外の科目について、対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳を記す。受講登録者数に対する回収率は、76.4%であった（2018 年度春夏学期：講義科目 75.4%、講義以外の科目 21.1%）。

2019 年度秋冬学期授業改善アンケート　講義科目
対象科目数･回答数

		対象科目数	回答数
学部科目	共通科目	1	5
	行動系科目	34	892
	社会人間系科目	23	517
	教育系科目	29	552
	共生系科目	13	339
大学院科目	共通科目	7	40
	行動系科目	12	26
	社会人間系科目	15	49
	教育系科目	14	83
	共生系科目	14	50
G30 科目		17	121
計		179	2674

回収数 2674／受講登録者数 3621＝回収率 73.8%

※1　基礎科目は、行動・社会人間系・教育・共生系科目に割り振られている。
　2　受講登録者数は、アンケートが実施された科目についての数値である。

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされている。さらに2010年度後期より、授業担当教員からアンケート結果を踏まえて授業の振り返りのコメントの提出を求めており、次回の授業の改善に役立てられている。

２．授業改善アンケートの結果

前回まで、全科目をアンケート実施対象科目とし、講義科目についてはマークシート方式を、講義以外の科目（演習、実習、研究）についてはKOAN上にて回答する方式を採用していたが、KOAN 上での回答率の低さを改善すべく、今回よりすべてマークシート方式に変更した。2019年度秋冬学期の授業改善アンケートの回収率は73.8%となり、2018年度秋冬学期の72.7%からの上昇は1ポイントにとどまった。

主要な質問項目である、授業の満足度についての問10「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」（1～5 の範囲で数値が高いほど高評価を意味する）については、平均が 4.17（2018 年度秋冬学期 4.07）であり、前年度よりも高い値となった。学系別集計によると、英語コース（G30）の「非常に良かった」と回答している学生の割合が、前年度よりも14.5ポイント上昇している。教育系科目は、問９「この授業で学問的知識が身についたと思いますか」について前年度より10.7ポイント上昇しており、専門的知識の修得を求める学生の要望に応えた結果が満足度にも反映していると考えられる。

満足度に関する問10以外の質問項目の概要は、以下の通りである。

問１の「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」に関しては、「80%以上出席」が84.1%となり、2018年度秋冬学期82.6%よりもさらに1.5ポイント上昇しており高い値となった。また、問２の「この授業の予習・復習にあてた１週間あたりの平均時間はどれくらいですか？」については経年変化を見ているが、今回「ほとんどなし」と答えたのは46.0%となり、前年度の50.9%から大幅な改善をみせた。各授業において対策・工夫がなされていることが窺われるとともに、効果が発揮されているといえる。

また、問３「授業の内容の難易度はどうでしたか？」に対しては「適切」であるとの回答が74.8%とこちらも2.1ポイント上昇している（2018年度秋冬学期：72.7%）。授業内容の理解度を尋ねる問４「授業内容はよく理解できましたか？」、授業方法の工夫等を尋ねる問８「授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？」のいずれもが前年度より向上していることからも、授業で扱う題材選定の適切さや、授業の進行形式の改善が、問９の学問的知識の修得および問10の満足度の向上に寄与しているといえる。

以下より、2019年度秋冬学期の授業改善アンケート結果の詳細を示す。

※学系別集計については以下のように集計している。

・自由回答項目については除かれ、選択式の設問について集計されている。

・学系別集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。

・豊中キャンパスで開講される基礎科目は、行動・社会・教育・共生科目に割り振られている。

・学系の共通科目は、学系別集計に含めていない。

・各学系によって１科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

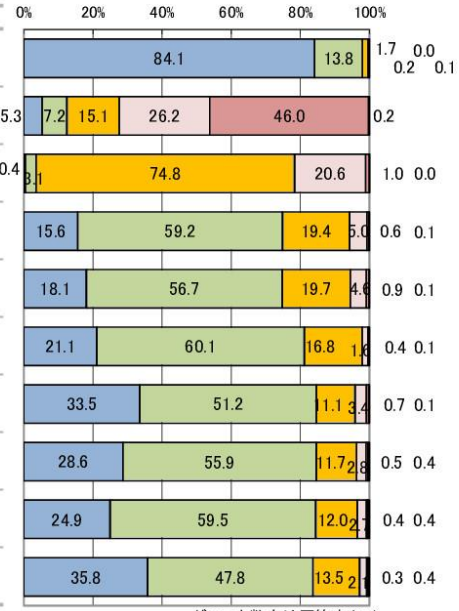
授業改善アンケート

大阪大学　人間科学部・人間科学研究科
2019年度後期

全体集計

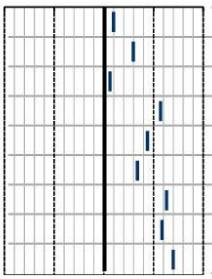
履修者数	3621
回答数	2674
回答率	73.8%

番号	内容	全体平均
1	この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？	4.82
2	この授業の予習・復習にあてた1週間あたりの平均時間はどれくらいですか？	1.99
3	授業内容の難易度はどうでしたか？	2.81
4	授業内容はよく理解できましたか？	3.84
5	授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？	3.87
6	授業はシラバスに沿って展開されましたか？	4.00
7	授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？	4.14
8	授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？	4.10
9	この授業で学問的知識が身についたと思いますか？	4.06
10	この授業は全体として良い授業だったと思いますか？	4.17



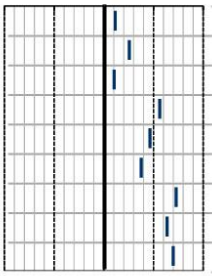
グラフ内数字は回答率（%）

【Q9との相関】



		相関係数
Q1	出席率	0.098
Q2	予習・復習の時間	0.297
Q3	授業の難易度	0.062
Q4	授業の理解度	0.569
Q5	シラバスの内容	0.439
Q6	シラバスとの整合	0.339
Q7	興味・関心	0.631
Q8	授業方法と資料	0.586
Q10	総合評価	0.698

【Q10との相関】

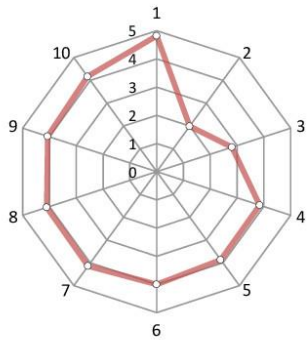


		相関係数
Q1	出席率	0.114
Q2	予習・復習の時間	0.257
Q3	授業の難易度	0.103
Q4	授業の理解度	0.563
Q5	シラバスの内容	0.465
Q6	シラバスとの整合	0.377
Q7	興味・関心	0.727
Q8	授業方法と資料	0.637
Q9	学問的知識	0.698

回答凡例						
配点	5	4	3	2	1	−
質問1	80%以上	60～80%	40～60%	20～40%	20%以下	不明（無回答を含む）
質問2	3時間以上	1.5時間～3時間	30分～1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4～9	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	かなり良くなかった	

相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。プラスは正の相関関係、マイナスは負の相関関係です。総合評価であるQ9とQ10はどの項目と関係が深いのか、授業の何を改善すればよいのかの参考値として下さい。相関係数の「−」は計算不能を示します。（例：回答者全員が同じ回答、回答データが1件のみなど）

【質問別得点】



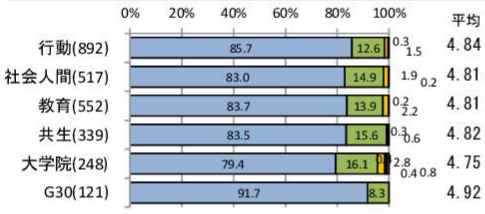
大阪大学　人間科学部・人間科学研究科
授業改善アンケート　2019年度後期

学系別集計【全体】

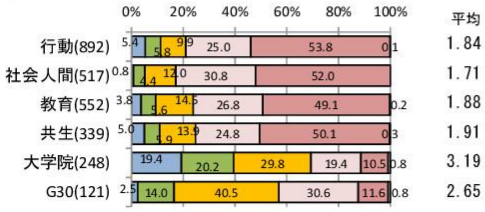
※グラフ内数字は回答率（%）

回答凡例						
配点	5	4	3	2	1	－
質問1	80%以上	60～80%	40～60%	20～40%	20%以下	不明（無回答を含む）
質問2	3時間以上	1.5時間～3時間	30分～1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4～9	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	かなり良くなかった	

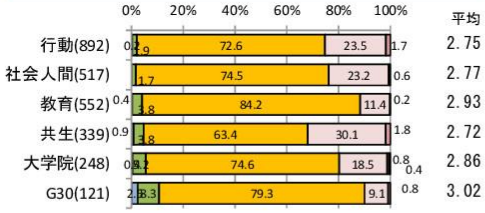
1．この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？



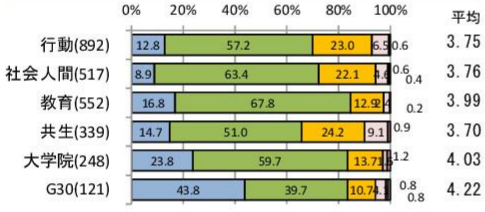
2．この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



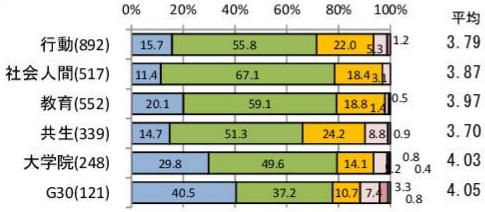
3．授業内容の難易度はどうでしたか？



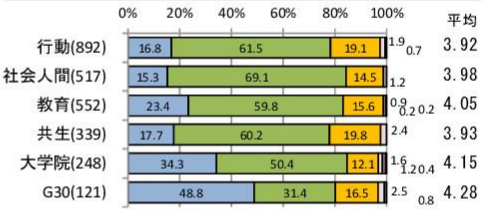
4．授業内容はよく理解できましたか？



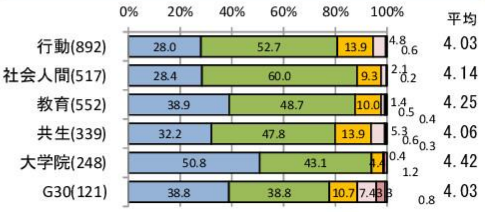
5．授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の 内容を知るのに役立ちましたか？



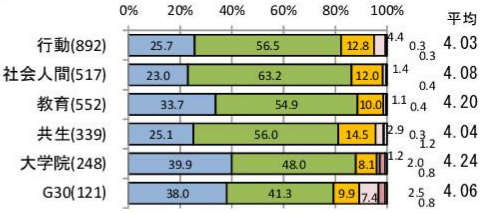
6．授業はシラバスに沿って展開されましたか？



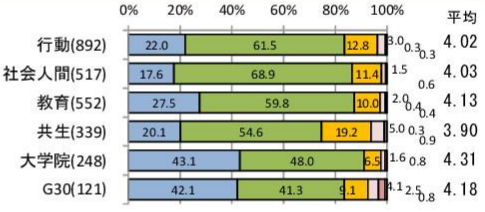
7．授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？



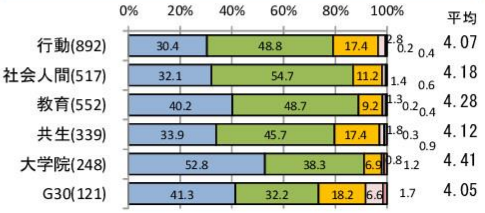
8．授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？



9．この授業で学問的知識が身についたと思いますか？



１０．この授業は全体として良い授業だったと思いますか？



＜満足度上位の科目＞

問 10 より、満足度の結果を示す（有効回答数が 10 以上の科目のみ）。平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味する。アンケート対象科目 211 科目のうち、有効回答数が 10 以上の科目は 59 科目であり、平均値 4.17 を上回ったのは 34 科目であった。

2019 年度秋冬学期講義科目

満足度上位の科目一覧

【学部】

	科目名	有効回答数	問 10　平均値
1	教育人間学 Ⅱ	33	4.78
2	Sexuality and Education	16	4.75
3	生活環境論	10	4.70
4	共生の技法 Ⅰ	31	4.61
5	共生社会論Ⅲ	22	4.57
6	Advanced Politics	11	4.55
7	ジェンダーと教育	29	4.52
8	人間行動学実験実習 Ⅰ（心理的アセスメント）	20	4.50
9	応用認知心理学（知覚・認知心理学）	41	4.49
10	比較福祉論 Ⅰ	23	4.45
10	臨床心理学演習 Ⅱ	11	4.45

【大学院】

	科目名	有効回答数	問 10　平均値
1	教育分野に関する理論と支援の展開	14	4.86
2	大学マネジメント論特講Ⅱ	10	4.50

3. 担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である。

渥美　公秀	共生行動論特別演習 II,共生行動論特定演習 II,共生学実験実習Ⅲ 共生行動論演習Ⅱ,共生行動論Ⅰ,共生学概論

コメント
⇒学部で行っている講義について、
（1）２コマ連続(隔週)という試みをしたところ、講義とディスカッションとがまとめて行えて充実していたのではないかと思っていたところ、そのような評価もあった。より充実した内容になるように努めたいと思う。
（2）講義の背後にある大きな文脈をもう少し早い時期に語ることが必要だと認識したので改良する。

豊中で実施した概論では、CLE のさらなる活用について複数の受講生がコメントして下さったので、他のアンケート結果とともに、次年度の担当教員に引き継いだ。

稲場　圭信	共生学実験実習Ⅲ,共生社会論Ⅲ

共生社会論Ⅲ
コメント
⇒
諸事情によりシラバスの通りに進まなかった部分が反省点で、次年度は改善します。
結果としては、全体として良い授業 4.75 だったので、よかったと思います。

共生学実験実習Ⅲ
コメント
⇒
諸事情によりシラバスの通りに進まなかった部分が反省点で、次年度は改善します。
結果としては、全体として良い授業 4.57 だったので、よかったと思います。

臼井 伸之介	安全行動学特別演習 II,安全行動学特定演習 II,人間行動学実験実習 III 人間行動学実験実習Ⅰ（心理的アセスメント）,安全行動学演習Ⅱ,安全行動学

コメント
⇒科目「安全行動学」　履修者は 67 名、回答者 54 名（回収率 80.4%）であった。
　今年は教室が 33 教室で、両側座席に座った学生はホワイトボードが見えにくいと思われるため、授業ではなるべく板書は避け、パワーポイント提示および配付資料を中心に実施した。また毎回、授業の最後にリアクションペーパーによる授業の感想と質問を求め、次の授業の最初にそのフィードバックを行った。その結果、講義の準備負担は高まったが、アンケートの設問 10（全体評価）は 4.13 と昨年（4 点以下）よりも大きく向上した。その他の項目も全体平均よりもやや上回った点となっており、今回の授業内容と形態を引き続き継続したいと考えている。

⇒科目「人間行動学実験実習Ⅰ（心理的アセスメント)」　履修者は 23 名、回答者 20 名（回収率 87.0%）であった。
　この科目は行動学系の 11 分野が毎週持ち回りで実習を担当し、毎回レポートを課すという形式で実施した。アンケート結果では、すべての項目で平均よりも上回った得点となっており、特に設問 10 は 4.50 と高く、また設問 4 から設問 9 のいずれの項目も平均より 0.3 から 0.7 点上回っていた。実習の最後に、授業アンケートとは別に無記名で授業の感想を自由記述で求めているが、そこでは行動学系全分野の実習を体験するという形式についてはきわめて高い評価を得ており、この形式を次年度も継続したいと考えている。

園山　大祐	比較教育制度学
コメント ⇒毎回履修いただきありがとうございました。 　世界の様々な教育制度について知ること、日本の教育について比較することができて楽しかったです。	

岡部　美香	教育人間学特定演習 II(B),教育人間学 II
コメント ⇒　コメントをいただき、ありがとうございました。毎回のコメントシートでも、受講の意義を見出していると伝えてくれる積極的な感想が少なからずあり、うれしく思っていたところです。次年度以降も、私の授業は講義形式が主体である点はかわりませんが、ディスカッションを適宜、取り入れながら、また時事的な課題についても積極的に取り上げながら、受けてよかったと一人でも多くの学生に思ってもらえる授業を構成していきたいと思います。	

吉川　徹	社会調査特定演習 II,計量社会学特講,社会学概論,社会環境学実験実習 III 経験社会学
コメント ⇒　いつも貴重なご示唆をいただいている。教えられる側から忌憚のない意見をいただくことは教員にとって大変重要な刺激となる。真摯に受け止めて授業改善を目指したい。	

金澤　忠博	比較発達心理学特定演習 II 行動生態学実験実習Ⅰ（心理的アセスメント） 発達臨床心理学（障害者・障害児心理学） 比較発達行動学（発達心理学） 比較発達心理学演習Ⅱ,行動生態学実験実習 III
コメント ⇒講義内容に関しては、概ね好評価が得られたようで、安心しました。配布資料が多すぎるという指摘がありましたが、自覚しているので徐々に改善したいと思います。毎回のリアクションペーパーに寄せられる質問は鋭くその都度何らかの刺激や発見があり、質問に答える時間がつい長くなりがちでしたが、受講者との双方向のやりとりのための貴重な時間と考えています。	

佐々木　淳	臨床心理学概論
コメント ⇒授業改善アンケートの結果から、当初の学習目標は達成されたと考えています。臨床心理学の概論は必須で取り上げるべき話題が多いため、一本の筋を通した学習にするためには、ある程度抽象的なことがらを扱う必要があります。期末レポートとともに「もっと聞きたかった話題」を寄せてもらいましたが、その多くはより具体的なことがらでした。来年度はそれをできる限り多く入れていこうと思います。	

佐藤　眞一	臨床死生学・老年行動学特別演習 II,臨床死生学・老年行動学特定演習 II 人間行動学実験実習 III,臨床死生学・老年行動学（福祉心理学），臨床死生学・老年行動学演習 II
コメント ⇒臨床死生学・老年行動学（福祉心理学）は、本年度より学部 2 年生以上への提供科目に変更された。大学院生が受講しないため、講義内容をより理解しやすいように、担当者 4 名で事前に打ち合わせを行ったうえで実施した。また、公認心理師資格取得に対応する科目のため、国家試験ブループリントに記載されている高齢者心理学関連項目やキーワードを含むように授業を工夫した。しかし、国試受験予定者ではない学生も多いことから、特別な資料などは準備しなかった。受験者各自が関連図書で学ぶなどの準備をして欲しい。アンケート結果は予習・復習にあてた時間が平均よりも少ないことが毎年の傾向であるが、関連書籍を紹介したことや、事前に授業で使用するパワーポイントファイルを CLE に掲載したことで、増加傾向にあるように思われる。他の項目への回答は、全体平均と同等かそれ以上の評価であった。実験実習や演習などの科目は受講生が研究室所属の学生であることと、数人程度なので個別対応も行うやめ、特に問題は無かったようである	

三浦　麻子	社会心理学特別演習 II,社会心理学特定演習 II,人間行動学実験実習 III 社会・集団・家族心理学,社会心理学演習Ⅱ
コメント ⇒座学科目に際して，受講生の関与をどう評価に組み込むかを事前に明確に想定できておらず（もう一歩踏み込んで言うと，これまでの授業経験において最も多く「熱心かつ実質的な関与をする学生の比率が高い」状況を想定しておらず），結果的に評価方法を途中で変更することになり，そのことが一部の受講生を混乱させることにつながってしまいました．率直に反省し，2020 年度以降の授業実施に際する教訓とします。	

篠原　一光	人間行動学実験実習 III,応用認知心理学（知覚・認知心理学） 応用認知心理学演習Ⅱ
コメント ⇒「応用認知心理学（知覚・認知心理学）」：例年と大きく変わるところはなく、おおむね好評であった一方で、予習復習にあてた時間が不足していることが示される結果であった。これまでも事前に予習用の資料を配布してきたが、その資料を講義でどのように活用するかを検討する必要があると考えている。	

森田 邦久	科学哲学特別演習 II,科学哲学特定演習 II,科学哲学
コメント ⇒アンケートは概ね良好であったが、やはり「難しい」との声もあったので、次年度はより丁寧に、時間をかける・具体例を増やすなどして講義をするように心がけたい	

西森　年寿	教育工学特別演習 II,教育工学特定演習 II,臨床教育学実験実習　I 臨床教育学実験実習 III,教育学概論,教育工学演習Ⅱ,教育工学 I
コメント ⇒ 「教育学概論」については例年通りの評価という印象ですが、今年は、比較的たくさん自由記述をいただいたので、具体的な感想に触れられてうれしかったです。CLE の資料のアップロードは有用だと感じられる方が多いようですので継続したいと思います。 「教育工学 I」については、今年は二倍近く受講人数が多くなり、それに対応した準備をしたつもりではあったのですが、総合的な評価は下がりました。人数が多くなっても質をおとさない工夫を考えたいと思います。とはいえ、受講人数は水ものですが。 その他演習等の科目については、少人数なので、アンケートといっても、なかなか本音も伝えづらいんじゃないかと思いますが、ひきつづき、みなさんの授業内での様子に注意して、改善していくよう努力します。	

青野 正二	環境評価論
コメント ⇒今年度の講義科目（環境評価論）では、特に「理解度」、「興味・関心」、「身についたか」、「よい授業だったか」といった項目において、回答（棒グラフ）の分布が、50%点を中心にほぼ左右対象形になっていた。この結果を標準とし、次年度以降の授業における分布の変化を見ることで、その授業がどれだけ改善されたのかを判断するのに参考になると思われる。また「難易度」においては、やや「やさしい」傾向が見られたが、これは内容説明にあたり、まず事例紹介を取り上げた後に一般論的な話をすることを試みたことが一因と考えられる。	

千葉　泉	共生の技法 I
コメント ⇒　学生との間のコミュニケーションをさらに改善することで、授業に関する彼らの意見や希望、アイデアを積極的に把握し、迅速にフィードバックを行うことで、受講生のニーズにより対応した授業の構築に努めたいと思います。	

足立　浩平	行動統計科学特別演習 II,行動統計科学特定演習 II,行動生態学実験実習Ⅲ 行動統計科学演習Ⅱ,多変量統計科学
コメント ⇒ Multivariate Data Science・多変量統計科学について 数理系の学問は難解さを伴うため，すべてを把握するのは難しいです．そこで，「この部分はわからなくても構わない」という判断が大切で，大雑把にエッセンスを把握することに努めてください。 行動統計科学の演習・特定研究・実験実習について	

引き続き，オリジナルなアイデアを考えて，シナリオ構想力を鍛え，論文が書けるように努力してください。

村上　靖彦	Applied Phenomenology,哲学と質的研究特別演習 I,哲学と質的研究特定演習 I 現代人間学実験実習Ⅰ,現代思想論,現代人間学実験実習Ⅲ
コメント ⇒おおむね満足をしていただけたようでよかったですが、一部の科目では参加者によって評価にばらつきがあったので、平均して満足がえられるためにどうしたらよいか考えたいと思います。	

中井　宏	交通心理学
コメント ⇒「交通心理学」 難易度や授業理解、教材や進行方法について、概ね高い評価が得られたと解釈している。自由記述の中に「課題を早く知らせてくれて良かった」とあったが、こちらの期待ほど授業外学習時間が短く、内容的に不十分な課題が多かった。次年度は、期待水準を周知するため、課題の見本も提示し、授業外学習を促したい。	

中野　良彦	生物人類学特定演習 II,生物人類学演習,生物人類学
コメント ⇒学部での生物人類学の講義は、学生の出席状況や授業態度が非常によく、予定した内容をスムーズに進めることが出来た。 内容的には、どうしても生物人類学の専門的な部分が多くなってしまうので、生物関連研究室以外の学生にはどれほど興味をもち理解できたのか難しい課題である。同じ理由から、予習･復習の時間が少なくなるのも仕方がないと考える。ただ、記述式のテストの結果を見ると、想定していた以上に専門書などでの理解を進めていたように感じる。 他の授業は、受講者が少なくコメントは難しい。	

中澤　渉	英語による国際コミュニケーション II-B,英語による国際コミュニケーション I-B, 教育と社会
コメント ⇒特に問題になることはなかったと思います。今期で阪大での最後の授業となりましたが、皆さんよく聞いてくれ、興味深いコメントを毎回出していただけたことに感謝しています。	

辻　大介	コミュニケーション社会学
コメント ⇒　おおよそ例年と大きく変わらない集計値が出ていて、総合的には良い評価と言えそうですが、「予習・復習にあてた」時間が全体平均を下回るのが課題です。映像教材を多用するので、あらかじめウェブにアップしておいて見てもらうことができれば、予習としてものぞましいのですが、コピーガードがかかっている映像ではそれもままなりませんし、悩ましいところです。	

藤川　信夫	共生の人間学特定演習 II-b,教育人間学特定演習 II(A),共生の人間学演習Ⅱ 教育思想史,臨床教育学実験実習 I
コメント ⇒学部向け実験実習、大学院向け演習につき、シラバスの書き方の工夫が必要であることが分かった。大学院向け演習、とくに共生の人間学特定演習については、課題の提示とスケジュール管理をより明確する必要があることが分かった。	

八十島　安伸	行動生理学,行動生理学演習 II, 行動生態学実験実習Ⅲ,行動生理学特講 II
コメント ⇒　どの科目も概ね高めの評価をいただけたことは良かった。専門的な学術用語、解剖学用語、理系特有の言い回しなど、普段は聞きなれない言葉・用語や見慣れないグラフ・表などを多く使う必要があり、受講者には理解しにくい側面もあったと思います。理系科目であるので、それらのハードルは避けては通れないのですが、生理学・神経科学・脳科学、そして、心理学・行動科学からという複眼的視座から「人間」を理解するための基礎知識や考え方を伝えることをミッションとして、今後も各講義・演習の質向上に努めます。	

野坂 祐子	教育分野に関する理論と支援の展開,臨床教育学実験実習Ⅲ,教育心理学演習Ⅱ
コメント ⇒「教育分野に関する理論と支援の展開」では、例年、「予習・復習」の時間がほとんどとられていませんでしたが、今年度は課題を出したこともあり、ほぼ全員が講義時間以外の学習に取組まれていました。来年度も引き続き、授業と課題を組み合わせて学習を進めていけたらと思います。 「教育心理学演習Ⅱ」と「臨床教育学実験実習Ⅱ」は、どちらも課題が多く大変だったと思いますが、どちらもみなさんの参加度も高くてよかったです。	

野尻　英一	Contemporary Japanese Thought,社会理論特講,比較文明学特別演習Ⅱ 比較文明学特定演習Ⅱ,文明動態学,比較思想史
コメント ⇒　みなさん、たくさんアンケートにお答えいただいてありがとうございます。今期は、授業の内容、構成、運営ともにおおむね好評だったようです。また授業中もフィートバックをたくさんいただきました。特に比較思想史／Contemporary Japanese Thought は、積極的で優秀な学生が多く、私も学ばせていただいて、とても良かったです。まだ大阪大学に慣れつつある途上ですが、みなさんからのご意見を参考にいっそう授業を改善していきたいと思います。	

野村　晴夫	臨床心理面接特講Ⅱ
コメント ⇒概ね高評価を頂いておりますが，今後もさらなる改善に努めてまいります。	

山口 洋介	教育コミュニケーション学Ⅱ：学習・言語心理学 （野村　晴夫先生）
コメント ⇒アンケートへの回答，ありがとうございました。おおむね関心を持って学んでいただけたことを，うれしく思います。当該科目としては初開講の授業であったということもあり，学習者の関心に沿ってシラバスを一部変更しましたが，今回の授業を受けて，内容や進め方についてあらためて検討したいと思います。	

鈴木　勇	共生社会論Ⅰ
コメント ⇒今日の社会情勢や時事問題を取り上げながら、共生論を展開した。学生の授業内容への関心が高く、様々なコメントを返してくれたことが嬉しかった。ただ、あまりディスカッションができなかったので、授業の中でもっと学生の声を聞いていきたい。	

老松　克博	臨床心理学特別演習 II, 臨床心理学特定演習 II, 臨床心理査定演習 II 臨床心理学特講 II, 臨床教育学実験実習 III, 臨床教育学実験実習Ⅰ（心理的アセスメント）
コメント ⇒皆さん，がんばって授業についてきてくださったと思います。ありがとうございました。アンケート結果を見ると，例年と同様，予習や復習について配慮する必要があるということでした。予習はたいせつだと思いますが，これら臨床心理学系の授業では，予備知識に大きく頼らず，むしろ自身の内面を見つめてどう対処するかを見出すという，臨床の現場で必要とされる力をそれぞれに見出していただくことを重視しています。ご理解をお願いします。	

脇阪　紀行	メディアと共生社会特講, メディアと社会
コメント ⇒学部向け授業「メディアと社会」において、授業の難易度は「適切」との回答が多く、「理解度」や「興味関心」においても平均を上回る評価をもらったが、「学問的知識」においては受講生の期待に沿えなかったと反省しています。「シラバス」において授業内容がわかりにくかった、との声があり、シラバスの改善を行いたい。授業方法や資料への工夫についてやや評価が低く、受講生の数に比べて教室が大きかったことや、パワポに依存しすぎたかもしれないと反省しています。 大学院向け授業「メディアと共生社会特講」において、出席率はかなり良く、授業の「難易度」「理解度」、さらに「興味関心」について平均以上の評価を得ることができました。少人数で意見交換の時間を持ったのが背景にあるのかもしれません。他方、「学問的知識」においてはやや物足りないと感じた受講生が多かったようで、そのあたり、より工夫をしていきたいと考えております。	

檜垣 立哉	共生の人間学特別演習 II-a, 共生の人間学特定演習 II-a, 共生学実験実習Ⅲ 共生の人間学Ⅱ
コメント ⇒授業にかんしては TA のひとにまとめてもらい、私がしゃべるなど、一方的にしゃべるわけではない工夫をしていた点は良かったということで、この方向で進めていければとおもう。コメント返しも、一部にとどまってしなうが（全員やるのはやはり大変なので）それなりに好評なようでよかったとおもう。 また大学院の授業であるが、今回は結構院生発表がたてこんでしまい、テクストを読む時間が充分とれなかったので、その点来年工夫し、講読的な部分もより充実させていきたい。	

澤村 信英	国際協力学特別演習 II, 共生学実験実習Ⅲ
コメント ⇒3 年生の実験実習において、予習・復習にあてた時間数が全体平均に比べて圧倒的に多い一方で、当該科目の評価が概して高い。このことは、順調に学修が進んでいる証でもあり、そのような授業の組み立てをしてきた効果の表れでもあると思う。大学院生向けの演習は、受講生の研究成果や進捗の発表、共有が中心であり、妥当な結果だろう。	

齊藤　貴浩	高等教育論特講Ⅱ
コメント ⇒授業の出席率と授業の難易度（やや易しい方向）を除き、他の項目 では他の授業の平均を上回っていることは良かったと思う。ただ、 職員の受講が多いので、忖度している可能性も否めないことには 留意すべきと考える。 授業に対しての授業外学習時間が平均より多いことは驚いた。 これに関しては、平均より多いから安心するのではなく、他の 授業が低すぎるのだと思うので、さらに学習してもらうように 働きかけていきたい。	

髙谷　幸	現代社会学
コメント ⇒　「現代社会学」について 　ゲストスピーカーの回を予定していたが、講義の進捗の関係で実施できなかった。来年度は予定通り進めるようにしたい。 　また予習、複数時間が少ない受講生の割合が高い。来年度は、授業時間外での学習を促す工夫をしたい。	

髙田 一宏	教育文化学特定演習 II, 教育環境学実験実習Ⅲ, 教育環境学実験実習 I 教育文化学演習Ⅱ, 教育文化学, コミュニティ教育学

コメント ⇒講義科目の評価は全体の平均とほぼ同じだった。資料や教材を肯定的に評価してくれた意見がある一方、私語が気になる、ディスカッションを取り入れるとよいとの意見もあった。ともすれば受け身になりがちな授業方法だったようである。改善を考えたい。実験実習と演習は、授業の性格上、2（予習・復習）の評価がかなり高かった。ただし、受講者は数人なので、数値的な評価にはあまり意味がない。

川端　亮	大学マネジメント論特講Ⅱ, 現代社会と社会理論特別演習Ⅱ 現代社会と社会理論特定演習Ⅱ, 社会調査特別演習 II 社会環境学実験実習 III, 理論社会学演習Ⅱ, 社会環境学実験実習 I
コメント ⇒　実験実習が 3 コマで長いので、10 分の休憩を 2 回、きちんととって欲しいというコメントがあった。グループワークの際にはグループごとに自由に休憩してよいという指示をしていたが、実際には休憩時間を取っていないグループが多く見られたことから、きちんと指示して休憩時間を取るようにしたい。 3 コマは不要、2 コマでよいというコメントもあったが、実習は 3 コマ実施しないと必要な単位にならない。したがって、それに対処するには授業内容を増やすことになるが、そのようなコメントは一人だけであったので、同じ程度の内容で様子を見たい。	

牟田　和恵	家族社会学
⇒　おおむね、良好な評価が得られた。受講生の積極的参加をはかれるよう、さらに工夫したい。	

平井　啓	心の健康教育に関する理論と実践
コメント ⇒「心の健康教育の理論と実践」では、心理教育プログラムの企画やコンテンツ作成を行う上でのフレームワークを提示し、それを使ったグループなどを行っている。講義前半が講義中心、後半がグループワーク中心となっているが、前半の講義でのインプット量が多いため全体のバランスを調整していきたい。	

２０１９年度人間科学研究科／人間科学部　秋・冬学期授業アンケート回答結果　計３８名分